

上智学院 サステナビリティ推進本部を設置

SDGsに寄与する研究・教育・社会貢献を発信



9月22日、上智学院に新たに設置された「サステナビリティ推進本部」についての報道機関向け説明会がオンラインで開催された。同本部の責任者である暁道佳明学長、サリ・アガスティン総務

担当理事、森下哲朗グロバル推進担当副学長が登壇。学生職員として採用された学生も出席し、報道機関の取材陣に對し、その狙いなどについて説明をした。

本学院は、カトリック・イエズス会を設立母体とする教育機関として、中期計画「グランド・レイアウト2.1」において、基本理念に「人間の尊厳」を脅かす、『貧困、環境、教育、倫理』に関する社会課題の解決への貢献」を掲げている。

今後、社会的責任を果たす取り組みをより一層推進すること

とを目的として、同本部を設置。国連が掲げるSDGsに寄与する本学の研究、教育、社会貢献を社会に発信することも、プロジェクト推進の指針を担っていく。

説明会では、冒頭、暁道学長が本学の現在のSDGsへの取り組みを紹介しつつ、「急速なグローバル化と劇的な高度情報化が進むなかで、学内の有機的な連携や効果的な情報発信を強化する必要がある」と同本部設置の意義について語った。

続いてサリ総務担当理事は、カトリック・イエズス会の教義的観点から、SDGsへの取り組みの重要性を解説。「7つの教育機関を擁する学

校法人全体で、USR(大学の社会的責任)を果たしていかなければならない」と話した。

また、森下グロバル推進担当副学長は、同本部の概要について説明した。学生職員を採用した狙いについて、「サステナビリティを推進するうえで、大学の構成員として大部分を占める学生の視点は非常に重要」と強調した。

学生職員は、120人のエントリーの中から10人を採用。「情報発信チーム」「キャンパス改善チーム」「企画実施チーム」の3チームに分かれて活動している。各チームを代表して清水綾乃さん(国教4)、松見深太

企画展 聖イグナチオの霊的な遺産

居住した部屋をモチーフにした展示も

6号館1階展示スペースにおいて、企画展「聖イグナチオの霊的な遺産」が開催中だ。2号館1階カトリック・イエズス会センター前の壁面で開催中の企画展「聖イグナチオの足跡と共に」に連動したもので、「聖イグナチオ年」を記念する企画の一つとなる。

展示は3部構成となっている。左側には、「聖イグナチオと聖フランシスコ・ザビエルとの関わり」を紹介している。中央の展示は、聖イグナチオが居住し、祈り、ミサを捧げ、イエズス会初代総長として職務を果たしていたイエズス会本部(ローマ)の部屋をモチーフにした。聖イグナチオは、この部屋で世界各地へ派遣した宣教師からの報告を受け

取り、励ましと示唆に富んだ約7000通の手紙を書き送った。机上に聖イグナチオの著作「霊操」などを展示している。

右側では、日本の文化に合わせ近年仕立てられた宣教師の服(スータン)や帽子(ビレッタ)などを見ることが出来る。展示期間:10月7日(木)〜主催:問合せ先 カトリック・イエズス会センター catholic-co@sophia.ac.jp

新型コロナウイルス流行に伴う本学の対応について
新型コロナウイルスが依然として世界各地で流行しています。本学でも新型コロナウイルス対策本部を設置し、学生・教職員の健康と安全を守り、また、流行を抑制する社会的責任を果たすため、さまざまな対策を講じています。大学からの情報は、本学公式ウェブサイトに掲載しています。大学の対応、諸日程や施設利用の変更など、常に最新の情報をご確認ください。また、学生の皆さんはLoyolaや電子メールを定期的に確認し、授業や学生生活に関する最新情報を得るように心掛けてください。

◆大学からの情報は、以下URLに掲載しています。
<https://www.sophia.ac.jp/jpn/news/PR/covid19.html>

「基盤教育センター構想」が三菱みらい育成財団の助成対象に決定

本学の「基盤教育センター」構想―全学共通科目の見直しによる新しい教養教育の実践―が、一般財団法人三菱みらい育成財団の2021年度助成対象に決定した。同財団の「21世紀型教養教育プログラム」への応募44件の中から採択された10件のうちの1つ。

この構想は、従来の全学共通科目について専門領域を超えてつなぐ科目群からなる横の軸と、俯瞰・導入から探求・統合に至るまでのレベルで構成する縦の軸で展開するカリキュラムとして組み替え、刷新するものだ。2022年度入学生からを対象としている。

新カリキュラムでは、入学前教育として、本学での学びをイメージして入学後の学修への動機付けを行うオンデマンド科目「学びを学ぶ」の視聴から始まる。入学後は、大きく「コア」と「展開知」に分けられた2つの科目群からなる全学共通科目を所属学科の専門科目や語学科目と有機的に

連携させて、学生たちは学びを進めていく。全学共通科目の「コア」科目群は、本学の教育の精神「他者のために、他者とともに」に込められた人間観・世界観について考える「人間理解」科目と、考える力の基本となるクリティカル・シンキングやデータリテラシーなどの知の技法を身につける「思考の基盤」科目で構成。「展開知」科目群は、未来を展望し課題を認識することによって「正解のない問い」に

ついて批判的に考える素地を作る。多様な視座や幅広い知識を身につけ、実践・経験と結びつける科目を提供していく。

「コア」および「展開知」のどちらの科目群にもレベル設定を行い、課題への気づきと学びの動機を与える1年次の導入的科目から、高学年科目まで配置。セルフ学修サポートフォリオを用いながら、自らの学修を振り返りデザインしていくことを通して、学生たちが自律した学修者として育っていくことを目指す。

本学では、一連のキャリア学習運営を担う基盤教育センターを本年7月に設置。同センターは全

「データサイエンス概論」が文部科学省が推進する認定制度に選定

基盤教育センターが運営を担う「データサイエンス概論」が、文部科学省が推進する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」(MDASH Literacy)に8月4日付で認定された。本学を含め、全国で78件が選定されている。

数理・データサイエンス・AI教育プログラム

認定制度とは、学生の数えきれない内容をさらなる体系的な学びにつなげていくことができる。2020年度から全学共通科目となる予定。

目的の選択科目として開講し、2022年度からは必修科目としてすべての1年生が受講する予定。

タイ・パンヤピヤット経営大学との協力協定をオンラインで署名

9月2日、本学とタイの企業大学であるパンヤピヤット経営大学との協力協定をオンラインで署名した。タイの企業大学であるパンヤピヤット経営大学との協力協定を締結するのは今回が初めて。

署名式では両学長の今後の協分野の可能性に触れながら祝辞を述べたほか、新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いたら後に相

互のキャンパス訪問を約束した。

企業大学としての強みを有するPIIMとの協定では、特にインターンシップ分野での協力が期待される。具体的には、上智学院がバンコクに設置した事業会社Sophia Global Education and Discovery Co.,Ltd.(Sophia GED)と連携し、PIIMでの本学学生のインターンシップや国際企業研修などが挙げられる。また、PIIM学生のSophia GEDでのインターンシップ受入など、協力関係を積極的に構築していく。

